

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：12613

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12809

研究課題名（和文）地域医療体制の確立に向けた医療供給者行動の準実験的実証研究

研究課題名（英文）Quasi-experimental empirical study of health care providers' behavior toward establishing a regional health care system

研究代表者

高久 玲音（タカクレオ）（TAKAKU, Reo）

一橋大学・国際・公共政策大学院・准教授

研究者番号：80645086

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：地域医療を支えるマンパワーの不足が懸念されている現状を踏まえて、近年急速に進んでいる医学部の高偏差値化が医師の労働供給にどのような影響を与えるのか解析した。分析では、入学した医学部の偏差値が高かった医師と、偏差値がそれほど高くない医師でどう変わるのか検証し、成果を2020年に英文学術誌に公表した。高偏差値化は入学した医師のキャリアパスに大きな影響を与えている可能性が示唆された。まず、DPC病院などの急性期病院で就労する確率が大きく上昇していた。また、専門医資格を取得する確率も上昇していた。一方で、開業する確率は大きく減少した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後、人口高齢化に伴い病院では急性期ではなく回復期・慢性期の医療機能が不足するとも言われている。いわゆる「かかりつけ医療機能」を担う人材の不足も懸念される。また、医学部ばかりに優秀な人材が集まるのは国全体の人的資源の配置として非効率だという指摘もある。そうした観点に対するはじめての本格的な学術研究となっており、大きな社会的意義がある。実際、研究成果は新聞やメディアで繰り返し報道されている。

研究成果の概要（英文）：In light of the current concern about the shortage of manpower to support regional medical care, I analyzed how the recent rapid increase in the deviation of medical schools to higher levels affects the labor supply of physicians. The analysis verified how it would change for physicians with high deviation from the medical school they entered and those with less high deviation, and the results were published in an English-language academic journal in 2020. It was suggested that higher deviation may have a significant impact on the career paths of physicians who entered the school. First, the probability of working in acute care hospitals such as DPC hospitals increased significantly. The probability of obtaining specialist certification also increased. On the other hand, the probability of practicing medicine decreased significantly.

研究分野：医療経済学

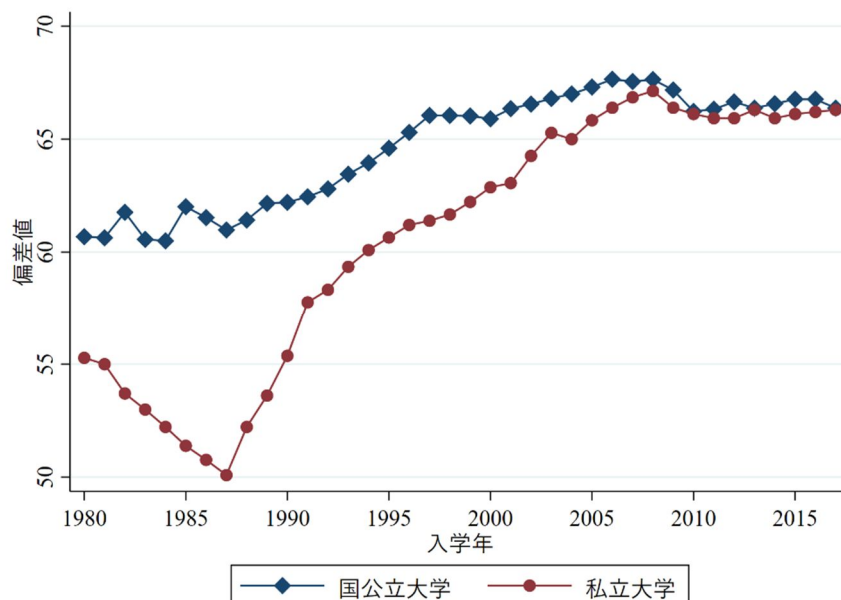
キーワード：偏差値 医師 かかりつけ医 地域医療

1. 研究開始当初の背景

日本の医療提供体制は一次医療と高度医療の区分が不明確であると言われている。特に、経営的に病院の外来部門への依存度は高く、小規模病院では入院と同程度の収入を外来部門で稼ぐケースも見受けられる。これは昭和初期以降の「開業医による病院の開設」という歴史的経緯を経てきた日本の医療提供体制の大きな特徴と言える。しかしながら、この特異な制度的特徴をもたらす様々な帰結について、データに基づく知見は少ない。本研究では、わが国でもっとも代表性の高いデータを用いて、病院は外来診療で何をしているのか明らかにする。更に、株式会社日本アルトマークの保有する医師のデータベースを利用して、病院・診療所行動の根幹をなすと思われる医師の行動についても解析を行った。

特に、どうして医学部は昨今のような超難関学部になったのかを解明することは重要と考えられた。医師は戦後一貫して最も知的で高給な職業の一つとして高い人気を誇ってきた。年収についていえば、賃金構造基本統計調査などの統計に基づく医師の平均年収は 1,500 万円程度とみられ、概ね看護師の 3 倍となっている。将来有望な若者が目指す職業として医師がふさわしいものであることには全く異論はないが、実は医学部の入試の歴史を振り返ると、必ずしも医師が今日のような超難関な資格とは言えない時代もあったことが浮かび上がってくる。河合塾の医学部の偏差値のデータを 1980 年から 2017 年まで示しているが、例えば私立大学医学部の偏差値は 1980 年代には 55 以下だった(図 1)。国立大は当時から難関だったものの、それでも偏差値は 62~3 だ。私立大学医学部の偏差値の低さは、私立大学医学部の学費が当時は非常に高かったこともあり、開業医含め一部の高所得者の子息しか入学できなかったことも影響しているだろう。

図 1 医学部の偏差値



2. 研究の目的

研究資金や体制の制約から、日本の医療提供体制の大きな特徴である自由開業制の解析に注力することとした。具体的には、医師のキャリア形成についての包括的な研究を行うことで「地域医療体制の確立に向けた医療供給者行動の準実験的実証研究」を達成できると考えた。特に地域医療に資する診療所の開設や医師の急性期病院指向がどのような要因で決定されるかデータに基づいて解析した。

3. 研究の方法

株式会社日本アルトマークの保有する医師のデータベースを利用し、河合塾の医学部偏差値データと接合した。その上で、17万人の医師のデータを作成し偏差値の上昇がどのような医師のキャリア形成につながるのか解析した。もちろん、異なる大学間でみるとキャリアパスが異なるのは当然なので、同じ大学の出身にも関わらず偏差値が異なる医師間でも比較をしている。例えば、ある私立大学医学部の偏差値は95年から2000年の間に52から62に急上昇した。一方で、国立大学医学部の偏差値はほぼその期間に60超程度で一定である。もし前者の私立大学の出身者のみでキャリアパスが変わるとすれば、それは高学歴化の影響を強く示唆するはずだと考えられた。

4. 研究成果

結果をみると、高偏差値化は入学した医師のキャリアパスに大きな影響を与えている可能性が示唆された。まず、年齢を調整した上でも、DPC病院（典型的な急性期病院）などの急性期病院で就労する確率が大きく上昇していた。また、専門医資格を取得する確率も上昇していた。一方で、開業する確率は大きく減少し、「在宅療養支援診療所」などの地域医療の支え手として期待されている診療所での勤務確率も減少していた。また、勤務地の特性についても調べてみたが、勤務地のある市区町村の人口密度や高齢化率などとは相関がみられなく、医師の超高学歴化がいわゆる医師の地域偏在に関連しているという証左は得られなかった。

こうした結果の解釈については、留保も必要である。まず医師の高学歴化は良い面も悪い面もある。良い面としては、専門医資格の取得が進み医療の質の向上が図られる点だ。難しい受験を潜り抜けても医師になりたいという若者が医師になる限り、選択した専門性の枠内において医療の質が高まると考えるのは自然だ。その一方で、高学歴化はどのようなキャリアを選択するのかに関する嗜好を大きく変えてしまうようだった。具体的には、プライマリーケアではなく急性期病院でのキャリア指向を強めてしまう側面もこの研究では確認された。この成果は2020年にHuman Resources for Health誌で公表され、2021年には新聞各紙や週刊エコノミストなどの一般紙でも取り上げられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Reo Takaku	4. 巻 18(38)
2. 論文標題 How is increased selectivity of medical school admissions associated with physicians' career choice? A Japanese experience.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Human Resources for Health	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12960-020-00480-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高久玲音	4. 巻 100
2. 論文標題 学者が斬る 視点争点 医師の高学歴化で高まるキャリア志向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------